

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

カンタベリー大主教の「和解」にかける情熱

ジャスティン・ウェルビー師父の大主教就任式
に出席して

首座主教 北海道教区主教 ナタナエル 植松 誠

第105代カンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師父の就任式は、3月21日、英国南部のカンタベリー大聖堂で行われ、チャールズ皇太子夫妻、カメロン首相、世界及び英国の諸宗教代表者、英国聖公会の主教たち、アングリカン・コミュニオンの首座主教たちなど、2000人もの人々が参列し、日本聖公会からは首座主教の植松誠主教が参列した。

2006年の夏、私が日本聖公会首座主教に就任してすぐ、英国のコヴェントリーで、世界の首座主教たちのための黙想会が開かれた。すでに人間の性に関する問題をめぐって、世界の聖公会は分裂と混乱を深めていて、コヴェントリー大聖堂の「釘の十字架・和解のミニストリー部門」が資金を集めて、首座主教たちが静かに祈り、黙想し、話し合うための会合を用意してくれ、私もそれに参加した。残念ながら、その黙想会にはアジアやアフリカのグローバル・サウスの首座主教たちの参加はほとんどなく、わずか15名ほどの首座主教たちの集まりであったが、この会のコーディネーターが、当時、コヴェントリー大聖堂のスタッフであったジャスティン・ウェルビー司祭であった。この会の間、私は何度も彼と話したり、食事をしたりする機会があり、それ以来、世界の聖公会の諸会議で時々会う度に、親しく交わりをいただいた。このジャスティンが2011年6月、ダラム教区の主教に就任したとの知らせを受けたが、それから1年もしないうちに、なんと彼がカンタベリー大主教の候補者に挙げられていると聞き、最初は信じられない思いだった。しかし、彼が、コヴェントリー大聖堂の和解のミニストリーで顕した卓越したリーダーシップを思い出し、また、それまでも、アフリカ各地や中東における民族抗争、宗教抗争の現場に彼自身が命の危険を冒してまでも出向いて行き、和解のための仲介の役割を果たしたことを思うと、現在の混迷する世界情勢、また教会の状況にとって、ジャスティンのようなリーダーシップを具えた

□会議・プログラム等予定

(4月25日以降および
前回報告以降追加分)

5月

- 7日(火) 礼拝委員会
- 8日(水) ~10日(金) 人権に関する
新任研修会〔東京、狭山〕
- 10日(金) 人権担当者会
ウィリアムズ主教記念基金
運営委員会
- 11日(土) 第60(臨時)総会一沖繩教
区主教選挙のため〔東京教
区神田キリスト教会〕
ハラスメント防止委員会
- 13日(月) 青年委員会
- 13日(月) ~15日(水) 大韓聖公会出
身教役者会
- 16日(木) 文書保管委員会
- 21日(火) 正義と平和・沖繩プロジェク
ト〔沖繩教区センター〕
- 23日(木) 主事会議
- 24日(金) 「いっしょに歩こう!プロジェク
ト」運営委員会〔仙台〕
- 25日(土) 「いっしょに歩こう!プロジェク
ト」の2年・感謝と祈り 聖
餐式〔仙台〕
- 27日(月) 教礼組・組織部会

6月

- 11日(火) ~13日(木) 主教会〔管区
事務所〕

7月

- 3日(水) 財政主査会
- 9日(火) 正義と平和委員会〔京都教
区センター〕
- 10日(水) 常議員会
- 11日(木) 主事会議
- 19日(金) 原発問題特別プロジェクト

<関係諸団体等会議他>

- 4月26日(金) 日本キリスト教連合会総会
常任委員会
- 5月16日(木) 聖公会生野センター理事
会



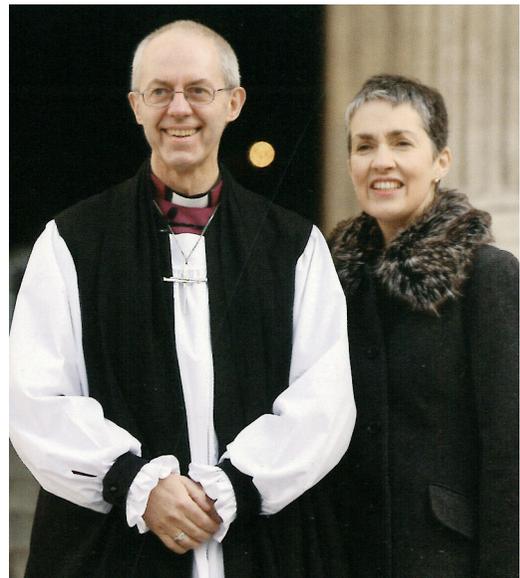
カンタベリー大主教を皆が求めているということは当然だろうと納得するようになった。しかし、そうであっても、主教に按手されてから、一年も経っていない主教をカンタベリー大主教に選ぶということは極めて異例であり、それだけに、彼への期待がいかに大きなものであるかがわかる。

ジャスティン・ウェルビー主教は正式な手続きを経て、2月4日にカンタベリー大主教に就任しており、3月21日はその就任式が公に行われたことになる。式の冒頭、カンタベリー大聖堂の扉から入ってきた大主教を迎えたのは、大聖堂の信徒の少女エヴァンジェリンであった。「あなたは誰ですか。どうしてこの大聖堂に来たのですか」という彼女の問いに対して、大主教は、「私はイエス・キリストの僕、ジャスティンです。神の恵みを求めながら、神にお仕えする旅をあなたと一緒にするために来ました」と答え、さらに、「私は大主教として、キリストの愛を告げ知らせ、あなたと共に心と精神と思いと力を尽くして主を礼拝し愛するためにここに遣わされました」と答えた。「あなたは私たちの中に来るのに、どのような自信を持っていますか」というエヴァンジェリンに、「私は十字架につけられたイエス・キリストしか知りません。私は弱さと恐れの中で、とても震えています」と大主教は答え、エヴァンジェリンが励ますように、「では、私たちは身を低くして、神の御前で神の憐れみと力を一緒に求めましょう」という言葉で大主教を迎えたのがとても印象的であった。そして、これらのジャスティンの告白は、カンタベリー大主教としての大任に就くこの時の、彼の正直な心境であり決心であるという思いがした。

この礼拝で読まれた福音書はマタイ14章22節以下、湖上を歩くイエスを幽霊だと思って怯える弟子たちに、イエスが「安心なさい。わたしだ。恐れることはない」とおっしゃり、また、ペテロに向かって、荒波の中、イエスのところに「来なさい」と呼びかけられたという箇所であった。説教の中で大主教は、混迷した世界にあって、恐怖に囚われている人々に、また紛争、差別、環境問題、貧困などの挑戦を受けている人々に、

「わたしだ。恐れることはない」という主のみ声によって勇気を得るようと呼びかけた。そして、首座主教たちを振り返りながら、「和解」の重要性を強調し、キリストの福音は和解をもたらすもので、そこでも主の呼びかけに応じようと熱く語った。

就任式の翌日は、ほぼ一日、大主教は世界各地の首座主教との会談に時間を費やした。どの首座主教とも直に話せるようにと、小さなグループに分けて共に食事をしながら、お茶をのみながらの話し合いであった。私は帰国便の時間の都合で、半日しか出られなかったが、それでも十分な、また密度の濃い話ができたとと思う。大主教は、現在のアングリカン・コミュニオン of 混迷を解決に向かわせるためには、聖公会という教会の体制から「帝国主義的」な要素を思い切って取り除くことが必要だということを語った。ACCのあり方、ランバス会議の持ち方、そしてカンタベリー大主教という存在そのものについても、新たな考え方を模索したいとの思いが大主教から表明された。私のグループにはたまたまアフリカの首座主教がいなかったもので、これらの首座主教たちとの話し合いがどのようにされたのかはわからないが、少なくとも大主教の「和解」にかける情熱は確実に伝わったと思えた。



Archbishop Justin and Mrs Welby, St Paul's Cathedral,
4 February 2013 © Getty Images 2013

「お守り言葉」

管区事務所 総主事 司祭 ヨハネ 相澤牧人

お守り言葉なるものがある、と知りました。その言葉を聞いたら、それ以上は詮索しないという合図のようなものだということです。その言葉は、「同盟」、「抑止」、「国益」、です。戦前では「国体」がそうであったと言われています。なるほど！合点がいくような気持ちになりました。そして私はそれに「安全」を加えたいと思いました。

私たちはこれらの言葉に惑わされてはいないでしょうか。思考停止に陥らされてはいないでしょうか。抑止力が必要と言われます。しかし、皆が抑止力を、と言い出したら、その力は、相手よりもさらに強大にと、際限なく繰り広げられていくことになることは容易に想像できるのではないのでしょうか。抑止のために、武力の保持をより強め続けていくことになるのでしょうか。国益と言われれば、なんだか我慢させられてしまう雰囲気があります。自分のことばかりを言っているのではダメなのではないか、もっと全体のことを、などと思わせられそうです。しかし、本当の意味の国益とは何でしょうか。明確にしていかなければならないと思います。この頃強く思うのは、安全である、ということです。安全を確認できれば再稼働する、と言われます。その安全は、言う者によって理解が違っているのだらうと思えます。放射性廃棄物の処理技術が見つかり、それが無害化が出来るようになるまでは、少なくとも安全だとは言えないのではないかと、思います。もちろんそれ以外の安全のこともあります。燃料の発掘から原子力発電へ至る様々な過程での危険性の問題も明らかになっていると思います。それ故に、安全とは何なのかをしっかりと見極めていきたいものです。

これらの言葉が、「お守り言葉」となってはなりません。それ以上は詮索しないのではなく、検証し、意味することを確認し、是非を問うことを忘れてはならないと思います。

主イエスのみ言葉はその判断基準を教えてください。「この最も小さな者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイ25:40・すべ

ての民族を裁く)」。これは、空腹、渇き、病い、非保護、囚われの状態の人びとへの関わりが、神への行為となるということの教えです。

「行って、あなたも同じようにしなさい。(ルカ10:37・サマリヤ人の譬え)」。この譬えは、思想信条が違って、正しいことは正しい、大切なことは大切なのだ、という明確な教えです。

「わたしもあなたを罪に定めない。(ヨハネ8:11・姦通の女)」。この言葉を語る主イエスの心は、もう罪を犯さないと悔い改め、再び生きることの尊さにあるのです。これは、その生き方へと導く励まし言葉です。

主イエスのこれらの言葉は、様々な状況の中でも、“ひとつ”の“いのち”を“大切に”するという強い思いが現わされているものであると理解します。全体を考えることも必要ですが、その前提にはひとつのいのちへの眼差しがなければなりません。それが無くなるなら、全体を考えることの意味はどれほどあるのでしょうか。

キリスト者の視点はこの主イエスの言葉にあると思っています。この実践をどのようにしていくのか、様々な状況の中で、思いを深め、当てはめていくことが求められているのだと思います。

5月3日は憲法記念日です。日本の憲法は意味深いものと思います。そして、憲法の本質は、法律とは違って、国民を縛るものではなく、国や為政者の行為が制限されるものであるということを忘れてはなりません。国は、為政者は、その憲法を守ることを貴び、お守り言葉を利用し、詮索させないのではなく、ひとつのいのちを大切に世界(平和)の構築へと進んでいってほしいと願っています。そして、それが実現されるようにと、私たち一人一人がそれぞれの場で関わっていくことがその歩みを正しい方向に導いていくのだと思います。

主イエスが言われた「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5:9)」とのみ言葉が強く響いてきます。

□常議員会

第59(定期)総会後第5回 4月10日(水)

1. 2012年度管区一般会計決算承認の件
(責任役員会決議)
財政主事より説明を受けて承認。
2. 宗教法人「日本聖公会九州教区規則」一部変更の件(責任役員会決議)
九州教区より申請のあった、九州教区規則第7条に日本聖公会佐賀聖ルカ伝道所(佐賀市水ヶ江2丁目7の2)を加える件に関して、総主事より提案・説明を受けて承認。
3. 諸委員選任および推薦の件
 - (1) 祈祷書等検査委員長
司祭 小野寺 達〔北関東教区〕(司祭 大橋 邦一退職に伴う変更)
 - (2) ハラスメント防止に関する管区体制を検討するチーム(委員追加)
司祭 後藤 香織〔中部教区〕、司祭 上田 亜樹子〔ハワイ教区〕、阿部 裕〔東京教区〕
 - (3) NCC 女性委員会(委員交代)
前島恵〔東京教区〕(田中あみ姉辞任による交代。任期:2015年3月の定期総会まで。)
 - (4) 青年委員および NCC 青年委員会派遣委員(委員追加)
委員追加:新田沙代(ニッタ サヨ)〔東京教区〕(任期:2015年3月の定期総会まで。)
 - (5) 日本盲人キリスト教伝道協議会新総会期理事(NCCに推薦)
司祭 大森 明彦〔東京教区〕(任期:2013年7月より2年間)
4. 委員会の設置の件
「いっしょに歩こう!プロジェクト」のステー

トメントおよび第59(定期)総会決議「原発のない世界を求めて」に示されていることに基づき活動することを目的とした、「原発と放射能に関する特別プロジェクト ~いっしょに歩こうパートII~」を設置する。

5. 教役者給与支援金実施要綱の変更の件
変更前:「7. 支払いの時期を5月および11月とし、支払いは当該教区の申し出に行う。」
変更後:「7. 支払いの時期を5月および11月とする。」
以上のように変更。
次回以降:7月10日(水)、9月17日(火)

□各教区

横浜

- ・ 聖職按手式 2013年5月31日(金) おとめ聖マリヤの訪問 11時 横浜聖アンデレ主教座聖堂 説教:司祭 村上守旦 司祭按手:志願者 執事 パウロ眞野玄範、執事按手:志願者 聖職候補生 ヨナ眞栄田 肇

中部

- ・ 聖職按手式 2013年6月1日(土) 10時半 名古屋聖マルコ教会 説教:司祭 竹内謙太郎 司祭按手:志願者 執事 ヨセフ石田雅嗣

九州

- ・ 第107回(臨時)教区会 2013年4月27日(土) 10時半 九州教区主教座聖堂 福岡聖パウロ教会
議案:(1) 久留米聖公教会の土地・建物の変更及び処分について
(2) 久留米聖公教会の建築と、久留米天使幼稚園との協働事業について



《人 事》

東京

司祭 ロイス上田亜樹子	2013年3月31日付 2013年4月1日付	主教座聖堂付の任を解く。 ハワイ教区より受け入れ、立教女学院への出向を命じる。
司祭 シモン・ペテロ上田憲明	2013年3月31日付 2013年4月1日付	主教座聖堂付の任を解く。 ハワイ教区より受け入れ、大阪教区への出向を命じる。
司祭 アンデレ中村邦介	2013年4月1日付	聖公会神学院での任務を許可する。
司祭 ビカステス今井丞治	2013年4月1日付	聖アンデレ主教座聖堂嘱託(八王子地区ミッショナー)を委嘱する。(任期1年)
司祭 イサク小笠原愛作	2013年4月1日付	小笠原聖ジョージ教会嘱託を委嘱する。(任期1年)
司祭 テモテ小笠原忍	2013年4月1日付	聖アンデレ教会嘱託を委嘱する。(任期1年)
司祭 テモテ河野裕道	2013年4月1日付	環状教会グループ担当の嘱託を委嘱する。(任期1年)
司祭 バルナバ関 正勝	2013年4月1日付	聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂嘱託を委嘱する。(任期1年)
司祭 バルトロマイ竹内謙太郎	2013年4月1日付	東京聖テモテ教会嘱託を委嘱する。(任期1年)
執事 アンデレ小野里俊一	2013年4月1日付	聖アンデレ教会嘱託を委嘱する。(無給任期1年)
執事 トマス日高馨輔	2013年4月1日付	聖アンデレ教会嘱託を委嘱する。(任期1年)

中部

執事 ヨハネ大和田康司	2013年4月1日付	司祭テモテ野村潔のもとで、名古屋聖マルコ教会において主日勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 ペテロ田中誠	2013年4月1日付	学校法人柳城学院チャプレンとして派遣。(任期1年)
司祭 マルコ箭野眞理	2013年4月1日付	学校法人柳城学院チャプレンとして派遣。(任期1年)
司祭 テモテ野村 潔	2013年4月1日付	学校法人柳城学院チャプレンとして派遣。(任期1年)
司祭 アンブロージア後藤香織	2013年4月1日付	学校法人柳城学院チャプレンとして派遣。(任期1年)

大阪

執事 アンデレ田宮 紘	2013年3月31日付	定年により退職。
司祭 ペテロ竹村徑一	2013年3月31日付 2013年4月1日付	桃山学院出向(中高チャプレン)及び大阪聖アンデレ教会牧師の任を解く。 大阪聖ヨハネ教会牧師、及び聖ヨハネ学園

		チャプレンに任命する。
主教 サムエル大西 修	2013年4月1日付	大阪聖アンデレ教会管理牧師に任命する。
司祭 シモン・ペテロ上田憲明 (米国聖公会ハワイ教区在籍)	2013年4月1日付	ハワイ教区承認の上、桃山学院の要請により同学院(中高)にチャプレンとして1年間派遣する。また、大阪聖アンデレ教会副牧師に任命する。
司祭 ヨハネ鍋島守一	2013年3月31日付	大阪聖ヨハネ教会牧師、及び聖ヨハネ学園チャプレンの任を解く。
	2013年4月1日付	主教座聖堂付を命ずる。
	2013年4月30日付	願いにより退職を許可する。
司祭 フランシス趙ジョンピル (宣教協働者/大韓聖公会ソウル教区在籍)	2013年3月31日付	宣教協働者としての契約期間が満了することに先立ち同契約が2年間更新された。
	2013年4月1日付	恵我之荘聖マタイ教会牧師に任命する。(宣教協働者としての契約期間は2015年3月31日まで)。
司祭 パウロ井上進次	2013年3月31日付	プール学院への出向期間が満了
	2013年4月1日付	プール学院の要請を受けて同学院(中高)チャプレンとして、あらためて派遣する。(3年間)
執事 ヨハネ古澤秀利	2013年3月31日付	プール学院(中高)チャプレン補の任期が満了
	2013年4月1日付	プール学院の要請を受けて同学院(中高)チャプレン補として、あらためて派遣する。
司祭 ジョージ林 正樹	2013年3月31日付	大阪聖パウロ教会副牧師の任を解く。
	2013年4月1日付	大阪聖パウロ教会牧師に任命する。
司祭 ペテロ岩城 聰	2013年3月31日付	大阪聖パウロ教会管理牧師の任を解く。
	2013年4月1日付	庄内キリスト教会管理牧師に任命する。
司祭 アンデレ磯 晴久	2013年3月31日付	庄内キリスト教会管理牧師の任を解く。
司祭 ダニエル山野上素充	2013年4月1日付	主教サムエル大西修のもと守口復活教会で、司祭アンデレ磯晴久のもと東豊中聖ミカエル教会で、囑託司祭として勤務することを委嘱する。
主教 ヤコブ宇野 徹	2013年4月1日付	司祭アンデレ磯晴久のもと東豊中聖ミカエル教会で、司祭ヨシユア原田光雄のもと大阪城南キリスト教会及び聖ガブリエル教会で、司祭ペテロ岩城聰のもと庄内キリスト教会で、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。
司祭 ペテロ松山龍二	2013年4月1日付	司祭ヨシユア原田光雄のもと聖ガブリエル教

司祭 サムエル松岡虔一	2013年4月1日付	会及び大阪城南キリスト教会で、司祭ペテロ齊藤壹のもと大阪聖三一教会で、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。 主教サムエル大西修のもと富田林聖アグネス教会で、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。
司祭 サムエル坪井克己	2013年4月1日	司祭ペテロ岩城聰のもと庄内キリスト教会で、主教サムエル大西修のもと高槻聖マリヤ教会で、司祭ペテロ齊藤壹のもと大阪聖三一教会で、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。
司祭 サムエル福田光宏	2013年4月1日付	主教サムエル大西修のもと聖贖主教会で、司祭施洗者ヨハネ山本眞のもと芦屋聖マルコ教会及び西宮聖ペテロ教会で、司祭ペテロ齊藤壹のもと大阪聖愛教会で、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。
司祭 ヨハネ奥 康功	2013年4月1日付	司祭フランシス趙ジョンピルのもと恵我之荘聖マタイ教会で、司祭テモテ内田望のもと聖ルシヤ教会及び堺聖テモテ教会で、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。
司祭 ウィリアムス竹内信義	2013年4月1日付	司祭ペテロ齊藤壹のもと大阪聖愛教会で、司祭ペテロ岩城聰のもと川口基督教会で、主教サムエル大西修のもと聖贖主教会で、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。 プール学院の要請に基づき、主教サムエル大西修のもと同学院(大学)チャプレンとして派遣する。

沖繩

執事 ルシア並里輝枝	2013年3月21日付	管理牧師司祭ダビデ上原榮正のもと三原聖ペテロ聖パウロ教会牧師補を命ずる。
執事 グロリア西平妙子	2013年3月21日付	管理牧師司祭ペテロ高良孝太郎のもと小禄聖マタイ教会牧師補を命ずる。

《教会・施設》

佐賀聖ルカ伝道所(九州)	2013年4月1日付	日本聖公会法規第161条2項の定めにより、伝道所に教籍を置くことを許可する。 〒840-0054 佐賀市水ヶ江2-7-2 (TEL 0952-23-8322)
--------------	------------	---



東日本大震災支援

「いっしょに歩こう!プロジェクト」
仙台オフィスから ⑱

セントポール幼稚園(郡山) レポート

山本尚生 (九州教区久留米聖公会)

郡山セントポール幼稚園の朝は大忙しだ。先生たちは出勤すると一日の保育の準備から始まり、「欠席します」「お迎えのバスに乗りません」等の息つく間も無いほどかかってくる電話に対応。「今日は気分がのらないよ」と泣きながら登園してくる子どもをうまく迎え入れるのも保育者の見せ所。バスの添乗にも出かける。そして掃除。掃除といえば「当たり前」と思うかもしれないが、ここでは「除染」である。

放射線量が高いとわかってから行っていた、園舎全体を高圧洗浄機で洗い流す作業は現在ではしていないものの、園舎内の床の水拭き、手すりや扉のノブ、下駄箱の中、窓の棧など、子どもたちが触れる箇所を拭き上げは、今も一日2回行うのが日課となっている。放射能は目に見えない。園長先生が時々こぼす「赤い色でもついていけばそこを拭けばいいんだけどね」という言葉のとおり、目に見えさえすればそこを徹底的に掃除すればいい。が、放射能はそうあまくない。ホコリに付着しやすいといわれているので、隅々も丁寧に拭き上げていく。一人でやると2時間はかかる。それを登園前と降園後の一日2回。

特に朝の時間にその大掃除並みの作業をやるのはあまりにも骨がおれる。拭き掃除をしているという話は聞いていたけど、昨年夏以降、運動会やちょっとした行事の手伝いにセントポール幼稚園にお邪魔するようになり、その日常を目の当たりにして先生たちが少しでも朝の貴重な時間を保育の準備や子どもたちの対応に時間がとればなあと思ひ、その「掃除」のお手伝いをするようになった。

原発事故後、セントポール幼稚園がある麓山地区にも放射能が舞い落ちてきて、放射線量が高いとわかってから、避難したり移住したりする家族がいて園児は半数に減り、幼稚園を継続するか? やめるか? を突きつけられ「そんな線量の高い所で保育など出来るか!」「今すぐやめろ!」など、ここでは書けないほど誹謗中傷の電話やメールがしょっちゅう来たという。残っている子どもたちや、どこにも避難出来ない家族のために決断した「存続」。存続するにはより安全な場所にしなければならない。そこで毎日の除染作業が先生たちの努力によって日々行われている。それでも、子どもたちの将来は大丈夫なのかの不安は2年たった今も、先生たちの心の中に重くのしかかっている。

運動場の砂の入れ替えや木の伐採、コンクリートへの工事、そこまでやっても今まで保育時間に取り入れていた外遊びはやっておらず、2年間ずっと室内での保育が工夫を凝らされ行われている。

外を眺めながら「震災後入園してきた子どもで今年卒園した子どもは一度も園庭で遊んだことがないし、遊んだことがある子どもも、もう遊びたいと言わなくなりましたね。」と先生が教えてくれた。

外から「そっちは放射能がいっぱいだから行ったらダメだよ!」と子ども同士で注意しあっている声がしたり、3歳の子どもの首からさげている放射能積算線量計をはずし【せんりょうけい】とひらがなで書いてある小さな箱に「せんりょうけい、せんりょうけい」とつぶやきながら提出する姿を見た時など、私たちに突きつけられている責任を感じる。

日々この地で暮らす先生たちや、子を持つ親の胸が締め付けられる思いはどんなものだろうと想像しても、想像しきれない。最近子どもたちが受けている健康診断、ホールボディカウンターの検査、甲状腺検査の結果も少しずつ伝わってきていて、それについて不安の声も聞く。

「いっしょに歩こう!プロジェクト」のスタッフの1人として私がこの場所のできる事は何か、どこ

にむかって歩いていけばいいのかわからない。今はただいっしょに「いる」ことが、先生たちや子どもたちの役に立てられればいいと思っている。

これまで、全国の教会や聖公会関係の学校など、福島県やその他被災地の家族や子どもたちを対象にした保養プログラムがいろんな形で開催されている。九州教区も昨年夏に幼稚園の先

生たちを招いたり、家族を招いて一緒に夏休みを過ごす事が出来た。今年もまた各地でたくさんのプログラムが企画されると思う。内容や時期など選択肢があればあるほど、子どもたちの楽しみも増えるだろうと期待している。「放射能がいっぱいだから」と言わなくてもいい場所で思いっきり遊ばせたい。

第57回国連女性の地位委員会に出席して

—日本聖公会の現状、東日本大震災支援活動などを報告—

東京教区聖アンデレ教会司祭 笹森田鶴

管区事務所だより前号(第278号)「世界の窓」欄で触れていただいたように、女性デスクの吉谷かおるさんと小職は、2013年3月4日～15日にニューヨークで開催された第57回国連女性の地位委員会(UN CSW57)に聖公会中央協議会(ACC)代表団として参加して参りました。UN CSW57のテーマは、「女性と少女に対するあらゆる形態の暴力の根絶と防止」でした。ACC代表団は10年程前からUN CSWに毎年参加しており、今年は17カ国と14の教会から成り、日本聖公会も2006年からACC代表団に毎年2名の女性を派遣しています。

今年もACC代表団は、それぞれの地域の女性や少女たちの声また教会の意志をUN CSWに反映させるため、弁護支援活動としてUN CSW57の傍聴、会期中に並行して行われるさまざまなイベントの運営や参加、各国の政府代表団との懇談会参加を行いました。聖公会国連オフィスや聖公会女性ネットワーク(IAWN)の支援によって各自の任務を果たすことができたことを、感謝をもってご報告申し上げます。

取り上げられていた課題は、大変厳しい女性や少女たちの現状を如実に現していました。10

人の女性のうち7名が何らかの暴力を受け、それは身体的、性的、精神的、社会的、経済的暴力の複合です。具体的には個人間また家族間暴力、レイプ、人身売買(ヒューマン・トラフィッキング)、女性器切除、強制売春などです。ことに個人間また家族間暴力や人身売買については、昨年10月27日から11月7日に開催された第15回ACCでも決議され、神の似姿に造られたものの回復のために女性や少女に対する暴力を根絶していくことを世界の聖公会は地域的にまた戦略的に働くことを決意しています。人身売買とは、性的搾取、強制労働、誘拐、臓器売買、幼児婚、女性器切除などが含まれ、自身の意志に反して体を搾取されることです。この被害を受ける女性ことに少女たちは、その声を挙げること自体が非常に困難な状況にあります。日本は人身売買の目的国、通過国と指摘されており、また現代の人口流動の激しいグローバルな社会において、他国の習慣が自分たちの国や地域では実践されていないという保証は全くないのです。

この度のACC代表団でもACC-15での決議を受けて、ジェンダーに基づく暴力や人身売買への対応が世界の各地の聖公会で重要な課題で

あるという認識と教会での実践の緊急性が分かち合われました。ことにIAWNやアメリカ聖公会、英国聖公会は、会期中の並行イベントをそれぞれ企画運営し、聖公会としての意志や女性や少女たちへの管区を越えた支援活動の取り組みを明確に発信する機会を積極的に作っていました。活動そのものもさることながら、その発信力はUN CSWまた社会に対して教会の可能性を印象づけるものでした。そして教会でも黙せざるを得ない女性や少女たちに対して、自分たちに起こっている事実は起きてはいけないことであると信仰共同体が認識していること、声を挙げて良いのだということへの大きな励ましや連帯のしるしでもありました。

ACC代表団の会合において、吉谷かおるさんが日本聖公会からの国別報告を作成提出し、日本聖公会の現状を分かち合ってくださいました。その中で、女性や少女への暴力根絶のため、教会の中にある女性に対する差別を克服し、教会のあらゆる意志決定機関や役割の中に女性が含まれていくことによる基盤作りの重要性を提示してくださいました。小職は東日本大震災被災者支援活動「いっしょに歩こう!プロジェクト」作成のDVDの上映と報告を行い、一同の深い連帯の中で祈りの時をご一緒する機会を得たことをご報告申し上げます。また在日フィリピン人への支援活動カパティランなどの取り組みなども分かち合い、今後の連帯の可能性を得たことは大きな収穫でした。

現在日本聖公会は、放射能汚染や人身売買に関わる固有の経験のただ中におり、世界に向けて自ら発信する役割が新たに与えられています。その意味で今後のUN CSWへの参加方法は転換期に来ていると言えます。またこの度、わたしたち二人の派遣のために支援し、励ましてくださったすべての方々はこの紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

「第57回国連女性の地位委員会アングリカン・コミュニオン代表団声明文」より

声を上げよう 行動に移す信仰

善を行うことを学び、正義を求めよ。虐げられた者を守れ。

親のない子の主張を支持し、夫を亡くした女性の訴えを弁護せよ。(イザヤ書 1.17)

〈以下、抜粋〉

世界に広がる教会は、解決の役割を担わなければならない。そこで私たちは、アングリカン・コミュニオンの全教会に以下のことを強く求める。

1. 女性と少女に対する暴力の根絶に向けてすでに実施されている積極的な働きを継続し、さらに進めること。

2. 長く続いてきた沈黙と無作為を終わらせること。声を上げ、働きを始めること。

3. 男性と少年を、解決を求め女性と少女に対する暴力を根絶するために欠かせない部分として含み入れること。

4. ACCのジェンダーに起因する暴力と家庭内暴力に関するACC決議 15.07と人身売買に関する決議15.10を実行すること。

5. 教会が教区レベルで保護のための場所、安全な場所となり、女性と少女に対する暴力への取り組みに積極的に参加するように奨励すること。

6. 暴力を認識しそれに効果的に取り組むために、意識を生み出し、聖職、信徒へのトレーニングを行うこと。

私たちは、アングリカン・コミュニオンの周辺に存在する、女性と少女に対する暴力の根絶に向けての働きにおいて諸教会を促しエンパワーするためのリソースに着目する。

私たちは、すべての人は神の似姿につくられているということ、また女性と少女に対する暴力は神の創造を損なうということをお断言する。私たちはまた、聖書は自由、正義、愛のメッセージをもたらすということをお断言する。

私たちは、教会が女性と少女に対する暴力のはなはだしい不公正に対して声を上げて、預言者的な声を取り戻すようにと呼びかける。

(声明文翻訳: 吉谷かおる)

「聖地旅行」2013 参加者募集

東京教区エルサレム教区協働委員会

—聖書にちなんだ遺跡と

主にある兄弟姉妹を訪ねて—

東京教区では、主イエスさまのみ跡をたどる聖地旅行に加えて、現地のクリスチャンに出会い、現代の世界に生きるクリスチャンとして共に祈りあい、辛さを分かち合い、平和を求めて私たちにできることを見出し、小さな力をささげて主イエスさまの働きにあずかりたいと活動してきました。

私たちが現地の教会を訪ね、共に礼拝をささげ交流することが、イスラエル占領下にあつて虐げられているクリスチャンにとってどんなにか励ましになるかということを知られます。欧米の教会でも少しずつ、このような聖地巡礼旅行をするグループが出てきています。

ナザレやエルサレムをゆっくりと散策し、静かなガリラヤ湖畔の修道院で黙想し、イエス様のお働きを思い起こしましょう。また聖公会エルサレム教区の諸教会を訪問し、聖職・信徒と交わり、その働きを学びましょう。それは今も尚復活して働いておられるイエス様との新たな出会いを体験することになるでしょう。全国から、20名の参加者を募集いたします。ぜひご一緒下さい。



山上の垂訓教会

〔概要〕

旅行期間：2013年9月10日(火)～20日(金)

訪問先：エルサレム、ナザレ、ガリラヤ、ベツレヘム、ヘブロン

旅費：32万円(交通費、宿泊費、全行程の食費、ガイド費など)

募集人数：20名

主催：東京教区エルサレム教区協働委員会

団長：主教 植松 誠 師父(交渉中)

同行チャプレン：司祭神崎雄二

(エルサレム教区協働委員会委員長)

申込締切：5月19日(聖霊降臨日)

申込先：東京教区事務所

FAX：03-3433-8678

問い合わせ先：岩浅明子

TEL/FAX：043-277-2716

e-mail: akikoiwaasa2000@yahoo.co.jp

日程と主な訪問先	
9月 10日 (火)	テルアビブ着 20:20 (エルサレム泊)
11日 (水)	午前中休養、午後エルサレム市内、ダワーニ主教に面会、主教主催の夕食 (エルサレム泊)
12日 (木)	早朝十字架道行、終日エルサレム市内 (エルサレム泊)
13日 (金)	ヘブロン、アブラハムの墓、市内のイスラエル人入植地 (ヘブロン泊)
14日 (土)	エリコ (ナザレ泊)
15日 (日)	ナザレの教会で主日礼拝、ナザレ市内観光 (ナザレ泊)
16日 (月)	山上の垂訓教会などガリラヤ3教会とカファルナウム (ナザレ泊)
17日 (火)	ガリラヤ湖、ガリラヤ湖畔の修道院で黙想会 (ガリラヤ泊)
18日 (水)	主教座聖堂信徒と交流、ベツレヘム(生誕教会、壁、難民キャンプ) (エルサレム泊)

(次頁へ続く)

(前頁より)

19日 (木)	サビール訪問 テルアビブ発 22:10 (機中泊)
20日 (金)	成田着 15:25

※訪問先については変更になる場合があることを、お含みおきください。



パンと魚の奇跡の教会



世界への窓

洗足式

イエス・キリストが弟子達の足を洗った事にちなんで、聖木曜日(今年は3月28日)に洗足式を行う習慣がありますが、英国に於ける新しい試みを紹介いたします。

英国聖公会の多くの教会では、従来どおり聖木曜日に伝統的な洗足式を行います。例えば新たに就任されたカンタベリー大主教やヨーク大主教は伝統的な洗足式をされました。

他方、現代の生活習慣に基づく新たな考え方の洗足式がここ数年に生まれています。それは聖職者ことに多くの教区主教が、街の中

心に出て行き街の人々の靴を磨くという事です。これを宣教のきっかけにしたいという新たな試みでもあるようです。

このような状況では人々はリラックスして会話が弾み、話し合う事で理解を深めるのに役立つようです。ことに主教が靴磨きをする事で話題性が豊富になります。ある人々はただ立ち止まるか、奇妙な顔をして立ち去る場合もあるようですが...。スワンシー・ブレイコンでは主教が街角で靴磨きをはじめて4年目になります。今年は参加者が多く約400ポンド(約15万円)の寄付金が集まりました。参考:Church Times 3月28日号

(記・渉外主事 八幡真也)

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/> ☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。
comm-sec.po@nskk.org 広報主事(鈴木)宛て

 **いっしょに歩こう!**
プロジェクト
日本聖公会東日本大震災被災者支援
ホームページ <http://nskk.org/walk/>